当社の取り組み

目次

1. 代表メッセージ

2. 企業経営の方向性及び情報処理技術の活用の方向性の決定

3. 企業経営及び情報処理技術の活用の具体的な方策（戦略）の決定

4. 戦略の達成状況に係る指標の決定

5. サイバーセキュリティに関する対策の的確な策定及び実施

1.代表メッセージ

当社では刻々と変化していく世の中に対応していくため、デジタルトランスフォーメーション（　　DX）に取り組んでいます。

2022年度に情報促進委員会を社内に設置して、 DX認定を取得すべく、まず「 DX推進指標」に基づく自己分析を実施しました。

この変革を更に加速させるため、デジタルトランスフォーメーションに対してのビジョンと具体的な取り組みをまとめた「DX戦略」を策定し、全従業員が一丸となってこのビジョンの実現を目指します。そしてお客様と地域のみなさんに支持される会社へと進化していきます。

代表取締役　金田孝成

2. 企業経営の方向性及び情報処理技術の活用の方向性の決定

DX時代における当社の取り組み

カネックスでは競争環境へのデジタル技術の導入により、

市場変化のスピードが飛躍的に加速していくなかで、 DXの

推進を行うことで方針の共有 /戦略の決定・実行までのス

ピードを上げて競争環境の変化に対応していく

2. 企業経営の方向性及び情報処理技術の活用の方向性の決定

DX基本方針

現場情報（アナログ）と数値情報（デジタル）に基づき、増客の仮説検証を繰り返し成果を出すまでスピードで数多く試行錯誤する。

新たに自社の成功事例を商品に、マーケティング支援事業を展開し、将来的にM&Aを進めシステム構築力を高め、システム活用力を付加価値とするサポート事業を展開していく。（長期事業計画）

DX推進プロジェクト

DXビジョン2026を実現するために、以下のフェーズに分けて取り組んでまいります。

カネックスでは、既存ビジネスの深化・新規ビジネスの創出・デジタル活用環境整備を3つの戦略的な柱とし、以下の DX推進プロジェクトへ取り組んでまいります。

DXビジョン	フェーズ0 2022年開始	フェーズ1 現在	フェーズ2 中期3～4年	フェーズ3 長期5～6年
1 新規ビジネスの創出	・各部署毎に同じデータを別のシステムで管理している。	kintoneにてシステムを構築する。	全社員kintoneの運用及び独自の管理システムの運用	独自システムの販売化
2 リアルタイム経営	・情報が紙、Microsoft Office、クラウドに点在しているところがある。	・Microsoft OfficeのデータはGoogle Workspaceへ移管する。	・各システムがリアルタイムに連携し、BIツールにて各従業員が現状を把握できるようにする。	・データを元に各業務プロセスにおける判断が行われる。
3 業務の効率化、環境の整備	Google、kintone、チャットワークを取り入れ全社に必要なタブレットを導入し、活用。	kintoneにて独自の管理システムの作成。Googleworkspaceで管理。	全社員独自の管理システムの運用、チェック。	独自のシステムの販売し新規ビジネスにつなげる
4 組織体制の変化	・代表直轄の企画室営業戦略チームにてDX推進を実施。	・全社的なDX戦略を策定。 ・定期的にDX推進指標の確認、見直しを実施。	・各部署にIT/DX推進担当者を設置。売上分析、製造分析を行なう。	・全社最適で統一し、チェック＆実行し、売上、利益の最大化を図る。
5 IT人財の創出	・一部の社員がバラバラにITスキルについて習得している。	・DX戦略に基づき必要なスキルを定義し社員に勉強会の場を提供する。	・社内認定資格制度を整備しスキル獲得状況を見える化する。 ・代表直轄のデジトラ事業部を発足	・デジトラ事業部を中心に次なる人財育成を加速させる

3. 企業経営及び情報処理技術の活用の具体的な方策（戦略）の決定

①戦略を効果的に進めるための体制の掲示

・代表直轄のデジトラ事業部を発足し、3D人財の育成とデジタル化を推進するための体制を構ずる。

IT人財の創出
短期：DX戦略に基づき必要なスキ ルを定義し社員に勉強会の 場を提供する。
中期：社内認定資格制度を整備しスキ ル獲得状況を見える化する 。
　　代表直轄のデジトラ事 業部を発足 。
長期：デジトラ事業部を中心に次なる 人財育成を加速させる 。

3. 企業経営及び情報処理技術の活用の具体的な方策（戦略）の決定

②最新の情報処理技術を活用するための環境整備の具体的方策の提示

現 在 の 基 幹 システムをサーバー 型 からクラウド 型 の 基 幹 システムへ 移 行し、すべての 業 務 の 入 口 をGoogle Workspaceに一元化する。

業務の効率化、環境の整備

現在

Google、kintone、チャットワークを取り入れ全社に必要なタブレットを導入し、活用。

短期

kintoneにて独自の管理システムの作成。Googleworkspaceで管理。

長期

kintoneにて独自の管理システムの作成。Googleworkspaceで管理。

4.戦略の達成状況に係る指標の決定

新規ビジネスの創出

・毎年6月に社外のお取引様を招き「経営計画発表会」を実施し経営計画書及び財務指標の報告を行い、戦略の達成度を図る　指標に基づき成果にて自己評価を開示している。kintoneを運用し、会社独自のシステムを構築する。

既存ビジネスの深化

・社内で運用しているシステムSmartHRに連携し、単体で働くシステム【ゼロ】にする。

・営業に関わるデータベースを日報革命、kintone、zohoを用いて構築しデータドリブン経営を実現させる。

・ツクツクの活用し、お客様名簿を作成、管理し、新たなビジネスにつなげる。

デジタル技術活用環境の整備

・電子決済とAPI連携を導入することにより、事務処理の短縮を実現させ、残業時間を短縮させる。

DX推進シナリオについて

Phase.2,からPhase.3への判断指標で記載
Phase.2から Phase.3への判断指標として
社内でのパソコンの保有台数を30台から20台へ

5.サイバーセキュリティーに関する対策の的確な策定及び実施

情報セキュリティ管理規則に測り、年次で監査を実施

- PMS 監査
- 年に1回各事業所の内部監査を実施
- 月に1回3現チェックでパソコンに関する点検項目で　TOP自らチェック
- マルウェア対策ですべてのパソコン端末にセキュリティシステムを導入
- securityAction制度に基づき2つ星の自己宣言を実施している

  https://joyful-kanex.jp/topics20221001.html

2022年10月策定
2024年11月改定
2026年10月改定